

葛飾区

イベントごみ減量マニュアル

～ みんなで減らそう イベントのごみ ～

Reduce

Reuse

Recycle



葛飾区ごみ減量・3R推進キャラクター

リー（R e e）ちゃん

発行 葛飾区 環境部 リサイクル清掃課
〒124-8555 葛飾区立石5-13-1
TEL 03-5654-8273（直通）
TEL 03-3695-1111（大代表）
内線3495・6・7
FAX 03-5698-1534

趣旨

区内では、一年を通して数多くのイベントが開催されています。多くの人が集まり、様々な企画が催されるイベントは、いろいろなかたちで環境負荷を与えることが考えられます。

イベントを開催するとき、参加される方に楽しんでいただくのはもちろんですが、主催者が企画の段階から「ごみが出ない・出さない」イベントの開催を心がけ、環境に配慮するなど、少しの工夫で無理なく環境にやさしいイベントが出来るように、このマニュアルを作成しました。

それぞれのイベントで、さらに工夫を凝らし、より環境にやさしいイベントが開催され、参加した方に楽しんでいただき、生き生きとした地域づくりが行われることを期待します。

対象となるイベント

区内で開催される不特定多数が参加するイベント(式典・まつり・展示会・各種大会など)で、区または区が後援するイベントだけではなく、町会や実行委員会などが開催するイベントにも趣旨を損なわない範囲で実施するようお願いしていきます。

基本的な考え方

イベントの開催にあたっては、会場設営などの準備段階から開催後の撤収・原状回復段階まで、さまざまな場面でエネルギーや資源を使用・消費するとともに、廃棄物の発生など、環境への負荷が発生します。

そのため、「ごみ減量・リサイクル」「参加者への周知」「主催者の積極的なごみ減量への取組」の3つの視点(基本的考え方)により、具体的取組内容を検討します。

＜ごみ減量・リサイクル＞

イベントには、多くの人が集まり、大量の廃棄物が発生する可能性があります。

そのため、イベントの開催にあたっては、すぐに廃棄されてしまう物品や再使用できない物品の購入や配布をできるだけ減らし、発生する廃棄物を抑制する「Reduce リデュース：発生抑制」とともに、再使用できる物品を積極的に利用する「Reuse リユース：再使用」ことを心がけ、分別等の徹底により、できるだけ資源として活用する「Recycle リサイクル：再生利用」など、3つのRで、ごみの発生ゼロをめざします。

＜参加者への周知＞

環境に配慮したイベントを成功させるためには、イベントの主催者だけではなく、出展者や来場者を含めた関係者一同がごみ減量への意識を持つことが必要です。

そのため、イベント主催者だけではなく、関係者にごみ減量への内容を説明するとともに、ごみ減量活動を呼びかけます。

また、環境やごみ減量をテーマとしたイベントであるかどうかを問わず、イベント開催時のごみ減量を通して参加者の環境保全に向けた意識啓発を図りましょう。

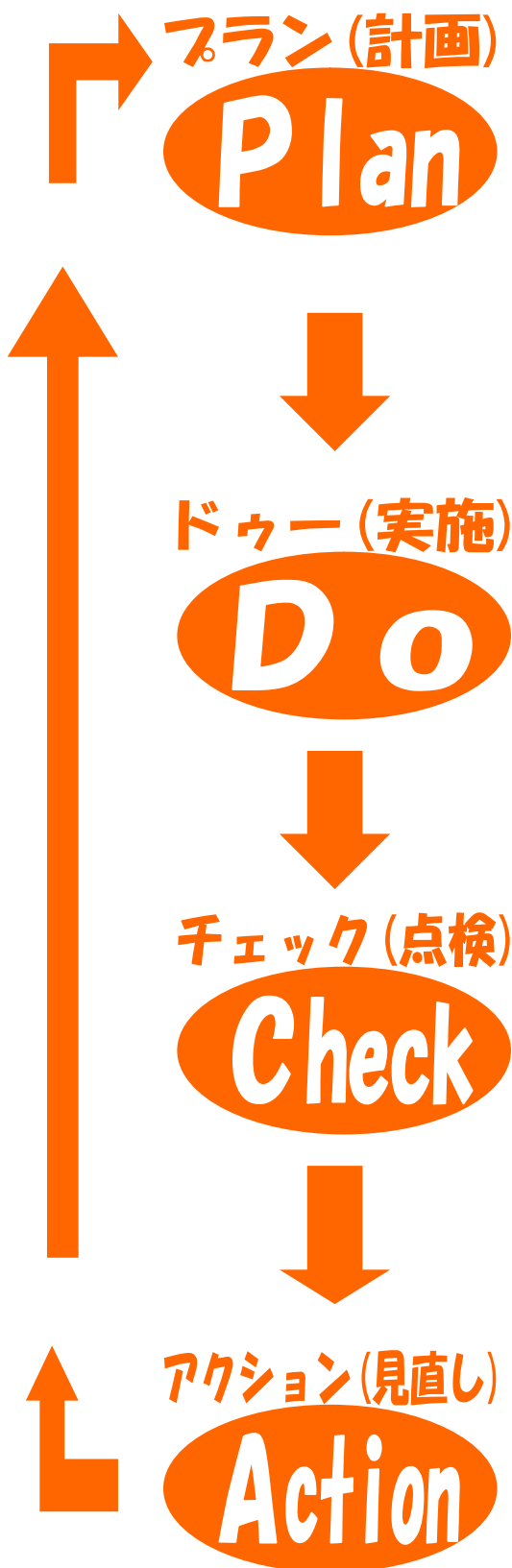
＜主催者の積極的なごみ減量への取組＞

イベントの実施に当たっては、ごみ減量をすすめるための運営体制を整えて、開催時のみならず、計画、準備の段階から取組を進めていくことが必要です。また、取組結果をチェックして、常にステップアップを図りましょう。

このマニュアルでは、企画段階、実施段階、終了後の取組、そして次回開催に向けた段階別にチェックシート（巻末資料）を用いて、項目を確認しながら取組を進めることができます。

マニュアルの使い方は、次ページへ →

<マニュアルの使い方>



【 イベントの企画段階 】

主催者は、イベントを企画する段階で、どのような取組を行うのか計画を立て、チェックシートの「計画欄」にチェックをします。

また、チェックシートに記載されている項目以外の取組を実施する場合には、「その他」欄に取組内容を記載します。

具体的取組例→P 4～7

【 イベントの実施段階 】

開催当日は、企画段階でチェックした内容に沿って、計画通り進んでいるか確認しながらイベントを運営します。

具体的取組例→P 7～11

【 イベント終了後 】

イベント終了後は、計画通りにできたか点検を行い、チェックシートの「結果」欄及び「反省点及び今後の留意点等」欄を記入し、チェックシートを完成させます。

具体的取組例→P 12

主催者は、ごみ減量の取組結果を踏まえ、改善点や今後実施することが望ましい項目を検討し、今後のイベントの実施に役立て、ごみ減量の取組を進めましょう。

ごみ減量イベント 計画の手引き



プラン(計画)
Plan

イベントの計画をたてる時には・・・

せっかく、ごみ減量に配慮したイベントにしたいと思っても、スタッフ全員にその方針が伝わっていなければ、十分な効果が得られません。

また、来場者に対しても事前に情報を伝えておくことで、協力が得られやすくなるでしょう。

<主催者の積極的なごみ減量への取組>

○責任者の明確化

ごみ減量を推進する責任者を決めて、進行管理を行うことで、ごみ減量への共通的事柄の共有や全体調整など取り組みがスムーズに進みます。ごみ減量担当を運営組織の中におき、このマニュアルの反映に取り組みましょう。

○スタッフ・出展者等への趣旨の徹底

主催者は、イベント関係者の全体打ち合わせの場などを利用して、スタッフや出展者・委託業者等、関係者に当イベントで実施しているごみ減量に関する具体的な説明と指示を行い、それぞれが作業の中で行うべきことを確認し合ひましょう。

○ごみ減量への配慮や普及啓発の実施

ごみ減量に関心のある区民や団体等のボランティア活動の協力を得て、参加者がごみ減量について学ぶ機会を提供するとともに、参加者による会場一斉清掃を行うなど、イベントにおけるごみ減量への配慮や普及啓発を行い、自主的活動を促進しましょう。

○委託業者のごみ減量促進

外部委託により実施する場合、仕様書にごみ減量やリサイクルの具体的な行動を盛り込むなど、委託業者のごみ減量を促進する。

<参加者への周知>

○ごみ減量に配慮したイベントの積極的PR

イベントには、様々な人々が参加します。チラシやポスターなどに、ごみ減量の内容を明記するなど、ごみ減量に配慮したイベントであることを積極的にPRし、協力を求めましょう。

ごみ減量をテーマにしたイベントであるかどうかを問わず、イベント開催時のごみ減量を通じて、参加者への意識啓発を図りましょう。



○参加者の協力

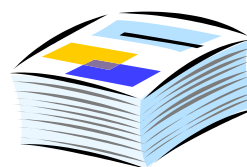
参加者にごみの持ち帰りや減量化、分別等の協力を求め、ごみ減量に対する理解や実践活動を促進しましょう。

<ごみ減量・リサイクル>

◆印刷物

○無駄の削減

ポスターやチラシ等は、配布カ所数と1カ所当たりの配布数、イベント会場への来場者数などから必要な枚数を事前にきちんと算出し、紙資源の保全及び発注にあたってのコストダウンを図りましょう。



○両面印刷・再生紙の利用

印刷物は、厚い立派な紙でなく、裏面が透けて見づらくない程度の薄さの紙を使用しましょう。チラシは55 kg、パンフレット・報告書類は70 kg以下、ポスターは130 kg以下を目安に仕様を見直しましょう。

補足：環境にやさしいソイインクが普及し始めています。また、石油系溶剤を排除し植物油に100%切り替えられたVOCゼロインクや有害物の廃液量や使用量が圧倒的に少ない水なし印刷という方式もありますので、ご検討ください。

○インターネットや電波媒体の活用

集客対象が様々な分野にまたがるときは、ホームページやFM放送などを活用するなど、効果的なPRを考えましょう。



○チラシの効果的な配布

チラシを配布する場合は、配布場所・方法などを考慮し、効果的な配布を心がけましょう。

○再使用の優先

会場の出口に配付資料返却箱を設置して、配布資料を回収し、使えるものは、再使用しましょう。

◆物品

○仮設物のリユース

看板・展示パネル・ブース等、事前に確認し、既存のものがあれば活用し、毎年使うものは、繰り返し使える材料で作って、ごみの発生を抑えましょう。

○環境に配慮した商品の購入

物品の購入にあたっては、環境に配慮した商品（エコマーク・グリーンマーク商品等）の購入に努めましょう。



エコマーク
環境にやさしい
製品に表示されます。



グリーンマーク
古紙から作られた
製品に表示されます。

○会場内の効果的な装飾

ポスター・垂れ幕・どん帳等装飾は、イベント運営上重要なことですから、周囲の状況に配慮し、強調したいことや効果的な装飾について、もう一度見直し、過去の設営にとらわれず不要な過剰装飾を避けることで、装飾をより効果的なものとすることを検討しましょう。



◆配布物

○環境にやさしい啓発物品の選択

ティッシュペーパーなどの使い捨ての啓発物品は、ごみとなりやすいので控え、環境にやさしいものを選び、その旨を掲載し、ごみ減量の普及啓発を兼ねて配布しましょう。



○啓発配布物の簡易包装

紙袋やビニール袋などの包装は、最終的にごみになってしまいます。ごみを減らすためには、できるだけ簡易包装に努めましょう。ただし、食べ物など衛生面の確保が必要な場合や壊れやすく破損防止等が必要な場合はこの限りではありません。



ドゥー(実施)

Do

イベントを実施しているときには…

<ごみ減量・リサイクル>

◆ごみの分別・処理

販売や飲食のないイベント

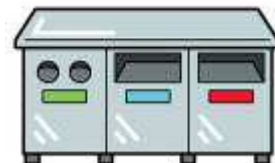
○ごみ箱を設置せず、ごみは持ち帰ってもらう。

会場設営などで発生したごみは、出展者が持ち帰りましょう。

販売や飲食を伴うイベント

○適切な個数の設置

発生するごみの種類を前もって検討し、イベントの規模に応じて適切な個数の分別ごみ箱を設置しましょう。



注意 イベントから出るごみは、一般家庭ごみとは分別方法や出し方が違います。詳しくは、P13・14をご覧ください。

混ぜて捨てれば、ごみになってしまいますが、きちんと分別すれば資源になるものがあります。

できる限り分別し、リサイクルを進めましょう。

分別の種類	分別の仕方
びん	ふたをはずし、洗浄用の専用バケツを用意して、軽くすすぐ。 飲み残しは、飲み残し専用のバケツを用意し、トイレなどに流す。
缶	
ペットボトル	ふたをはずし、洗浄用の専用バケツを用意して、軽くすすぐ。 飲み残し専用のバケツを用意する。 ふたとラベルは、プラマークへ。つぶすと運搬するのに便利です。
段ボール	粘着テープをとり、一箇所にまとめる。紙ひもでしばると運びやすくなります。 ※濡れたものは、燃やすごみへ。
チラシ・パンフレット類	チラシ・パンフレットなどのリサイクル可能な紙類は、まとめて紙ひもでしばる。リサイクル可能な紙は、引き取り業者にご相談ください。 ※汚れた紙はリサイクルできません。燃やすごみへ。
燃やすごみ	汚れてリサイクルできないものを出してください。(紙類・竹串等)
生ごみ	残飯用の水切りバケツを用意し、よく水を切る。水切りバケツの水分は適宜、トイレなどに流す。 生ごみは、リサイクル可能な場合があります。業者にご相談ください。 また、イベントの規模によっては、生ごみ処理機等を使って、堆肥化することも考えられます。
プラスチック類	発泡スチロールやプラスチック製のコップ・ペットボトルのふた・ラベル等はリサイクル可能です。業者にご相談ください。 汚れはきちんと落としましょう。
燃やさないごみ	リサイクルできないプラスチック類は燃やさないごみになる場合があります。また、リサイクルできない金属類や、陶器類は手をつけがしないように「危険」「われもの」などと表示して分別するようにしましょう。

飲食物を提供する出店者は、店頭「缶・びん・ペットボトル用容器(洗浄用と飲み残し用)」「燃えるごみ用容器(洗浄用と残飯用)」「残飯用の水切り用バケツ」を用意します。

○集積所の適切な設置

ごみの分別集積所は、飲食の場所や人の流れ等を考慮して、適切な場所に設置しましょう。あえて、人目につく場所に設置することで、お互いの監視効果も生まれます。

○ごみの分別表示



もやすごみ



もやさないごみ



しげん

お年寄りや小さな子どもでもわかるように、マークやイラスト入りで分かりやすく、大きく掲示を行うことで、混入を防ぐことができます。

○分別区分の設定

発生するごみの種類やリサイクルすることを想定して分別区分を決めましょう。

○適切な回収容器の設置

生ごみ等、発生するごみの種類に応じて、適切な回収容器を設置します。水切り用のバケツを用意するとよいでしょう。



○資源用回収ボックスの設置

資源用の回収ボックスの中が見えるようにすると、分別の徹底がしやすくなります。

○スタッフの配置

スタッフが巡回して、ごみをあふれさせないように管理し、ごみの分別方法等を説明しましょう。

○ごみの回収方法等の計画

ごみの回収方法等については、リサイクル業者等(P14 参照)と、事前に相談しましょう。生ごみもリサイクルが可能な場合があります。許可業者にご相談ください。

◆使い捨て容器の削減

○マイバッグ・マイ食器の利用や簡易包装の推奨

マイバッグ・マイ食器などにより環境への配慮に協力している参加者に特典を与えることで、使い捨て容器の削減を呼びかけましょう。



○繰り返し使えるリユース食器の利用

来場者に自分の家から箸、皿、コップを持って来てもらうと、その分のごみが全く出なくなります。

また、お皿やカップ類を貸出している団体もあります。詳しくは、環境省発行の「リユース食器を使ったエコイベント実践マニュアル」(<http://www.env.go.jp/recycle/report/h19-02/index.html>)をご覧ください。

イベント用にリユース食器の貸し出しを行っている団体があります(P17 参照)。リユース食器の調達方法は、主に2つの方法があります。1つは事前・事後の洗浄が必要な食器を借りる方法、もう一つは洗浄不要の食器を借りる方法です。

1 事前・事後の洗浄が必要な食器を利用する場合

イベント会場の近隣施設で洗浄するか、食器洗浄機付き自動車(食器洗浄機や乾燥機がセットになった車)を借り受けて洗浄する方法があります。

2 洗浄不要の食器を利用する場合

リユース食器を使ったエコイベントを支援するNPO(特定非営利活動法人)などが有料で提供しています。洗浄・乾燥は、NPOが行います。きれいな状態のリユース食器を使用後、汚れた状態のまま送り返すことができます。

注意！

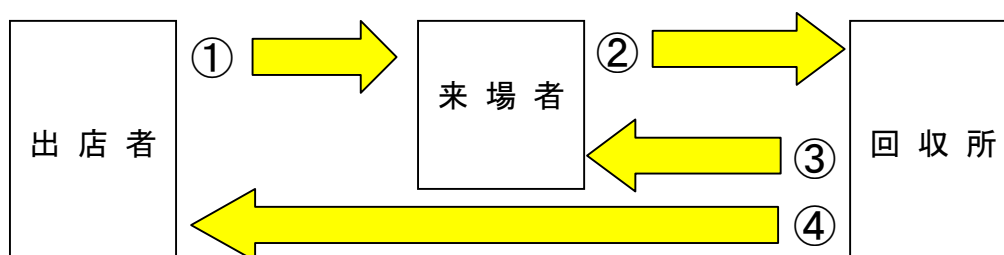
イベント等で一時的に飲食を提供する場合、食品衛生法で定めている営業許可が必要です。許可手続きの詳細については、健康部生活衛生課食品衛生担当係(健康プラザかつしか内)にご相談ください。リユース食器の利用についても必ずご確認ください。

○環境に配慮した素材の使用

再使用できるものが使えない場合は、環境に配慮した素材(紙製トレイ・木製スプーン等)を使用しましょう。最近では、葦やケナフなどの非木材紙を使って、自然環境の保護にも配慮した容器もあります。使った後は土に返すことができます。

○デポジット制の導入

販売時に容器代を上乗せして料金をいただき、容器を返してもらったときに容器代をお返しします。



- ①リユース食器に入れて飲食物を販売
- ②飲食後、来場者はリユース食器を回収所に返却
- ③デポジット(預かり金)を返却
- ④リユース食器を洗浄し、再使用

お金の受け渡しの手間を少なくするため、ワンコインをデポジット料金とするとよいでしょう。

また、市販のペットボトル飲料や缶飲料においても、ポイ捨て防止の啓発の一環として、デポジット制を活用した空き缶類の回収も考えられます。

○スタッフ等の食事容器

繰り返し使える弁当箱で提供・回収してもらうなど、ごみが出ないように配慮する。



◆チラシの配布

○印刷物のポイ捨て防止

プログラムなどを応募用紙として利用することも考えられます。また、印刷物等にごみの持ち帰りを呼びかける表示を掲載し、ポイ捨てを防止しましょう。



チェック(点検)・アクション(見直し)

Check・Action

イベント実施後に・・・

環境配慮の取組を継続し、広げていくためには、計画通りに実施できなかった項目について見直しを行い、次にイベントを開催するときその結果を活かすことが大切です。

少しずつでも「実施できた項目」を増やしていけるように取組を進めましょう。

<ごみ減量・リサイクル>

◆印刷物

○チラシ・パンフレット類の部数・仕様・印刷価格・配布先と部数を記録として保存し、後の類似印刷物作成の参考とする。

◆チラシの配布

○イベント案内などで余った印刷物は、持ち帰り、再資源化する。

◆ごみ処理・分別

○参加者一人あたりのごみ量、資源の量等を把握する。

<参加者への周知>

○ごみ減量についてのアンケートを実施し、参加者のごみ減量への意識啓発を行う。

○参加者にごみ減量への配慮がどの程度確認・理解されたかアンケートにより把握する。

<主催者の積極的なごみ減量への取組>

○ごみ減量の取組結果を踏まえ、改善点や今後実施することが望ましい項目などを検討し、今後の開催に役立てる。

○イベントの実施にあたり、参加者や区民等から環境配慮についての意見や苦情等があった場合は、その内容や対応結果などについて記録し、その内容については次回イベント開催にあたり確実に配慮する。

ごみ・資源の処理

イベントから出たごみは、事業系ごみになり、主催者が責任を持って適正に処理・リサイクルをおこなう必要があります。

事業系ごみは、産業廃棄物と一般廃棄物の2つに分類されます。

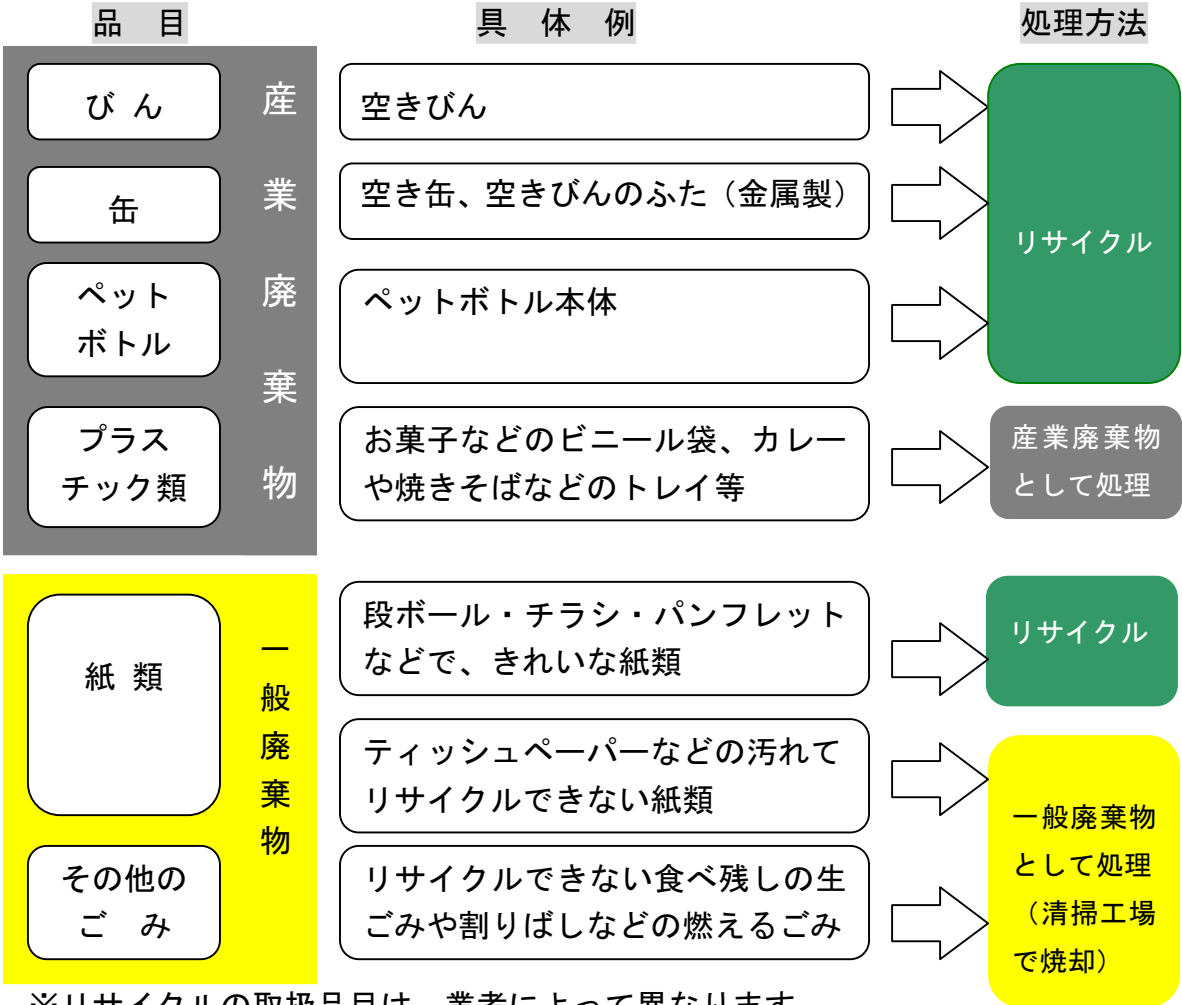
○産業廃棄物

…事業活動に伴って生ずる廃棄物のうち、法令に定められた20種類のもので、イベントでは、ペットボトルや食品トレイなどのプラスチック類、缶(金属類)、びん(ガラス類)がそれにあたります。

○一般廃棄物

…産業廃棄物以外の廃棄物で、イベントでは食べ残し、紙類がそれにあたります。

リサイクルできるものは、リサイクルにまわすことで、ごみの量を減らすことができます。



※リサイクルの取扱品目は、業者によって異なります。
次頁の許可業者・資源回収業者にご相談ください。

事業系ごみ（イベントから出たごみ）は、 集積所には出せません！！

一般廃棄物は、一般廃棄物収集運搬許可業者に回収（有料）してもらいましょう。許可業者は、区ホームページに掲載しています。

<http://www.city.katsushika.lg.jp/kurashi/1000048/1001537/1001680.html>

また、区内の許可業者が作る事業組合でも紹介しています。

◆ 東京都環境衛生事業協同組合 葛飾区支部 TEL 5 6 7 2 - 1 6 4 0

一般廃棄物の許可業者の大半は、
産業廃棄物の許可も取得しています。産業廃棄物
の処理を行う場合は、併せてご確認ください。



産業廃棄物の許可業者については、東京都のホームページで検索できます。
http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/resource/industrial_waste/processor/

また、下記団体でも産業廃棄物の許可業者を紹介しています。

◆ 一般社団法人 東京都産業資源循環協会 TEL 5 2 8 3 - 5 4 5 5 (代)

さらに、びん・缶・古紙類は、資源回収業者に引取りを依頼することもでき、
資源によっては有償で回収することもあります。

◆ 葛飾資源リサイクル事業協同組合 TEL 5 6 5 4 - 9 4 2 0

地域行事（自治町会・子ども会等）から発生するごみ

地域行事（自治町会・子ども会等）から発生する
ごみ処理については、分別などの一定の条件を
満たすと清掃事務所で回収できる場合があります。
行事日程が決まり次第、なるべくお早め
にご相談ください。

◆ 葛飾区清掃事務所 TEL 3 6 9 3 - 6 1 1 3



そのほか環境負荷低減のための取組



◆会場の選定

○会場選定の際は、既存の施設の有効利用を優先する。

公園などを利用するときは、自然環境への影響を最小限にとどめ、環境に影響を与えた場合は、できる限り原状回復を図りましょう。

○公共交通機関を利用しやすい施設を優先する。

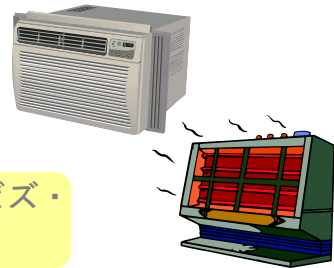
○環境に配慮した施設を優先する。

例：太陽光発電システムを設置している施設等

◆会場施設の管理

○会場内の温度を適正に保つ。

夏は28℃、冬は20℃に設定し、クールビズ・ウォームビズを呼びかけましょう。



○屋外照明等の適正化を図る。

照らす範囲を効率よく照明できるなど、省エネルギー性の高い照明器具を設置しましょう。

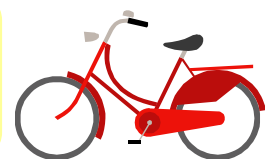
○参加者に環境への配慮を呼びかける表示を設置する。

ごみの持ち帰りを呼びかける表示を設置しましょう。
公共交通機関利用の案内表示を設置しましょう。

◆交通による環境負荷対策

○徒歩・自転車・公共交通機関等に環境負荷の少ない交通手段の利用を呼びかける。

イベント会場までの便利な公共交通機関の利用の仕方(ルート図・乗降場所・会場までの徒歩ルート)をパンフレットやチラシに掲載しましょう。



○自動車の効率的な利用(相乗り等)やアイドリング・ストップを呼びかける。

○搬入・搬出車両の使用にあたって、環境への配慮を行う。

例1：搬入・搬出業者に低公害・低燃費車等の使用を呼びかけましょう。

例2：搬入・搬出車両に対して、アイドリング・ストップなどのエコドライブの指導を徹底しましょう。

例3：スタッフ等の会場への集合にあたっては公共交通機関の利用を原則とし、マイカーの使用にあたっては相乗りなど効率的な輸送を行いましょ。

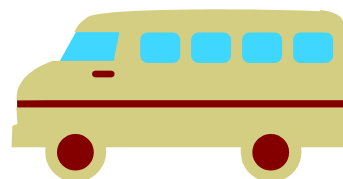
例4：スタッフ用の送迎バスを運行しましょう。



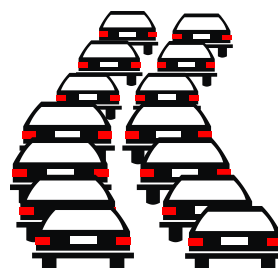
○パーク・アンド・ライド環境の整備やシャトルバスの活用により、効率的な交通手段を用意する。

公共交通機関の駅・停留所がすぐそばにない会場の場合、公共交通機関の利用を進めるためには、駅・停留所からシャトルバスを運行することが効果的です。

そのシャトルバスに低公害車を用いると更に効果的です。



○効率的な自動車の誘導や交通経路の情報提供等を行う。



関連情報

- 環境配慮に関するガイドライン等情報

環境省「会議等の環境配慮のススメ」

…会議等における環境配慮のガイドライン

http://www.env.go.jp/policy/kaigi_hairyo/tebiki.pds

- 印刷関係

3R活動推進フォーラム

…再生紙使用マークに関する情報

<http://3r-forum.jp/>

財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局

…エコマーク認定商品に関する情報

<http://www.ecomark.jp/>

財団法人 古紙再生促進センター

…グリーンマークに関する情報

<http://www.prpc.or.jp/>

- リユース食器ネットワーク

リユース食器を貸し出ししている都内の団体

NPO [ipledge](http://www.ipledge.jp/) (アイプレッジ)

東京都渋谷区神宮前1-10-34 原宿コーポ別館308

TEL: 03-6804-3004

<http://www.ipledge.jp/>

NPO法人 [社会資源再生協議会](http://www.reusecup.jp/)

埼玉県戸田市美女木6-6-6

TEL: 048-424-5405

<http://www.reusecup.jp/>

財団法人 [地球・人間環境フォーラム](http://www.gef.or.jp/)

東京都台東区蔵前3-17-3 蔵前インテリジェントビル8階

TEL: 03-5825-9735

<http://www.gef.or.jp/>